

# 桜すくら

S A K U R A S A K U R A

新任の御挨拶 — p1

トピックス — p2

新入職員紹介 — p3-4

2019年度のデータ — p5-6

栄養課コーナー — p7



## 看護部長着任挨拶

順心リハビリテーション病院

看護部長 谷村 睦美

この4月に看護部長に就任いたしました谷村睦美と申します。

私は、朝6時半頃の静寂な病院敷地内を歩くのが大好きです。大阪出身の私にとって、鶯の囀りやヤモリが3匹も4匹もガラスにはりついている光景はとても新鮮でした。

一方で、ひとたび病棟に入ると患者さまやスタッフが活気に満ち溢れ、リハビリ病棟の勢いを感じます。この静と動のバランスがとても心地よく、「今日も頑張ろう」と努めることができました。

「患者さまの回復を支援し、地域に信頼される看護を提供する」という看護部理念の下、寄り添い・支え・可能性を信じて看護を実践する。そのことにやりがい感や誇りを持てる看護部組織を目指します。

新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、当院を取り巻く環境は時時刻刻と変化していきます。環境の変化に柔軟に対応できるよう、「日々勉強」「ばてず・めげず・へこたれず」成長していきたいです。

どうぞ、よろしく願いいたします。



## 事務長着任挨拶

順心リハビリテーション病院

事務長 岡 英世



この4月から事務長として着任しました岡英世です。

私が順心会に入職したのは昭和62年、今から33年前です。神戸大学医療技術短期大学部理学療法学科を卒業し、教授から高齢者医療においてリハビリテーション医療はこれから必要となる分野であるのご助言を受け、就職致しました。現在の順心リハビリテーション病院の前身である幸生病院の立ち上げをしながら、順心病院で理学療法士としてスタートをきりました。その後、各病院、老人保健施設の開設、リハビリテーションサービスの実施を行い、平成14年からは関西総合リハビリテーション専門学校にて教鞭をとっておりました。

平成21年に順心リハビリテーション病院へ戻ってまいり、その際、かがけたのは「よりそうリハビリテーションサービスの実施」でした。その当時はセラピストの数は36名でしたが、その後5年間において110名まで増員しました。その結果リハビリテーション病院として恥ずかしくないサービス提供ができる病院になったかと思っております。

今後は、職員一同が自信をもって働ける職場環境をすることにより、さらなる患者様、ご家族様により良い専門性をもったサービス提供ができると考えております。

何卒宜しく願いいたします。

### ■はじめに

現在コロナウイルス感染者数は日本全体で約16,500名、兵庫県で約700名（5月21日時点）となっています。また後期高齢者を中心に重症化しやすいという特性があることから医療機関への影響は計り知れないものとなっています。先日では大阪の回復期リハビリテーション病院で感染拡大があり、院内感染対策への関心が高まっている印象を受けます。

### ■当院リハビリテーション課でのコロナウイルス対策

#### ①入院時

紹介元である急性期病院、及び患者様本人（2W）の感染状況、入院当日に付き添われるご家族様の体調確認を実施しています。

入院手続きでは当日に胸部CT検査を実施し、個室に入床、段階的に多床室へ転室するという流れになっています。またCT検査の結果がわかるまではベッドサイドでリハビリを実施しています。

#### ②リハビリ時

当院は回復期リハビリテーション病棟が2病棟、医療療養病棟が1病棟の計180床で運営しております。リハビリ室内での交差感染を防ぐため、リハビリ室のゾーニング（写真①）をしています。また当日担当するスタッフの動線を明確にし、感染が発生した場合の濃厚接触者の特定ができる体制を築いています。リハビリ実施中は常時換気を徹底しており、リハビリ機器、使用物品は昼休み、終業時に消毒をしています。さらにリハビリ中は患者様との距離が近くなるため相互に感染リスクがあると考えています。そこで職員全員が自作のフェイスシールド（写真②）とマスクを着用することで「うつさない、うつらない」を心がけています。

#### ②定期カンファレンス時

現在、カンファレンス時の患者様、ご家族様の接触は禁止としています。そのため現状報告は主にご家族様への電話連絡で対応しています。退院調整が必要なカンファレンスでは現状を詳細に伝える必要があるため、タブレットを使用し（写真③）、家族様、ケアマネージャー、施設職員に生活動作の確認を行って頂いております。これにより現状把握のみならず、今後の介護サービスの導入がスムーズに行えると考えています。

#### ④職員の健康管理

出勤時、昼食前、終業時に体温測定、自覚症状の記載を行っております。就業中はフェイスシールド、マスク、携帯用アルコール消毒剤を職員全員に配布しています。同居者や同居者の職場に疑似症がある場合には病症判別がつくまで自宅待機を実施しております。



写真①ゾーニング



写真②フェイスシールド



写真③タブレットを用いたカンファレンス

# 新入職員 紹介



理学療法士

私はどんな時でも「患者様がより良い状態で元の生活に戻るためにはどのようなリハビリを行うべきか」を考えることができるセラピストになりたいです。そのために、患者様の立場に立つということを忘れずに頑張っていきたいです。

唐牛 侑真



理学療法士

私は、患者様に担当で良かったと思われるセラピストになりたいです。相手の気持ちに寄り添えるように、自ら歩みかけて行動できるセラピストとして、これからも努力していきます。

橘 力斗



理学療法士

私は、目の前の相手に「伝えること」ができるセラピストになりたいです。そのために必要な知識や技術を身につけ、一人一人の患者様と向き合い、目の前の仕事を一生懸命に取り組みたいと思います。

小前 勇樹



理学療法士

患者様の期待に沿うために自分の持つ知識、経験のみで満足することなく、より良い方法を模索する向上心を持ち続けたいです。疾患と向き合い、原因を減らし地域の方々の健康寿命を延ばす予防介護にも精通したいと思います。

松岡 勇樹



理学療法士

私はセラピストとして、患者様に寄り添いながらともに同じ目標に向かってリハビリができる人になりたいです。その為に、先輩方に相談しながら勉強し、人一倍笑顔を忘れず元気な姿で患者様に向き合い仕事をしたいです。

高田 紗希



理学療法士

人として頼られ、利用者様から「あの人が担当で良かった」と思っただけのようなセラピストになります。そのため現在は日々勉強し、知識・技術を向上しています。人とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていきたいと思っています。

西 裕哉



作業療法士

私は在宅復帰を目標に、患者様に寄り添い「何が一番大切なのか」を明確にし、need に合わせたリハビリを提供していけるよう、先輩方のアドバイスをもとに一つ一つ経験を積み頑張っていこうと思います。

安藤 愛生



作業療法士

患者様一人一人に寄り添い、信頼されるセラピストになれるよう努力していきます。未熟な点が多くありますが、先輩方にご教授いただきながら日々成長していけるよう頑張ります。

大谷 真央

# 新入職員 紹介



## 作業療法士

患者様一人一人と向き合い希望や不安に耳を傾け、退院後にその人らしい生活が送れるようにリハビリテーションが行える作業療法士になりたいです。その為に常に学ぶことを忘れず、技術と知識を身につけたいと思います。

中川 美優



## 作業療法士

患者様の気持ちを理解し、信頼していただけるように努め、患者様とご家族様に寄り添えるセラピストになりたいと思います。業務内容を覚えていながら、患者様とのかわりも大切にしたいです。

北村 彩七



## 作業療法士

先輩方からのアドバイスや勉強会の中で知識や技術を磨き、その人の気持ちに寄り添えるような仕事をしたいです。また、「あなたに担当してもらえてよかった」と言っていただけるような作業療法士になりたいです。

斎藤 恵



## 言語聴覚士

患者様に寄り添って一緒になって考え、そして患者様の気持ちを前に向けることができるセラピストになりたいです。努力を怠らず、常に勉強し成長し続けられるよう一生懸命頑張ります。

岡田健太郎



## 言語聴覚士

私は、患者様のちょっとした変化に気づき、最良のリハビリを提供できるセラピストになりたいです。そのために、多職種との情報共有を密に、一回一回のリハビリを丁寧に取り組んでいきたいです。

松原 加奈



## 言語聴覚士

私は、思いやりと感謝の気持ちを忘れず精一杯仕事に取り組んでいきたいです。また、多くの経験を積み重ね、一人一人の患者様に対してベストなアプローチができるよう、言語聴覚士として成長していきたいです。

谷口 七海



## 看護師

先輩方の温かいご指導の下、思いやりを持った看護を提供していきたいです。よろしくお願致します。

堤 直子



## 看護師

私は患者様とじっくりと関わる事の出来る看護を実践したいと思い、この度順心リハビリテーション病院に入職させて頂きました。患者様の人生を尊重し、気持ちに寄り添う看護を提供していきたいです。どうぞ宜しくお願い致します。

和田麻梨子



## 看護師

患者さんの真のニーズが捉えられる看護師になれるよう、毎日を大切に頑張っていきたいです。

才田 由美



## 看護師

多職種との情報共有を大切に、患者様の望む在宅生活ができるよう看護をさせていただきたいです。

中西 雅子

# 2019年度のデータ

## 回復期リハビリテーション病棟のFIM利得の状況

FIM		2018年度			2019年度			2019年度 全国平均
		回リハ病棟 入院料1		回リハ病棟 入院料3	回リハ病棟 入院料1		回リハ病棟 入院料3	
全 体	入院時FIM	64.7		64.7	64.7		70.0	68.8
	退院時FIM	89.9		91.7	88.9		95.1	91.8
	<b>利得</b>	<b>25.1</b>		<b>27.0</b>	<b>24.2</b>		<b>25.1</b>	<b>23.1</b>
脳血管疾患	入院時FIM	61.8		61.1	62.8		65.5	63.1
	退院時FIM	85.8		87.7	86.8		89.1	86.0
	<b>利得</b>	<b>24.1</b>		<b>26.6</b>	<b>24.0</b>		<b>23.6</b>	<b>23.0</b>
運動器疾患	入院時FIM	73.3		72.1	69.1		77.5	75.0
	退院時FIM	101.1		99.8	92.1		104.8	99.0
	<b>利得</b>	<b>27.8</b>		<b>27.6</b>	<b>23.0</b>		<b>27.3</b>	<b>24.0</b>
廃用症候群	入院時FIM	67.6		67.9	62.3		70.5	58.1
	退院時FIM	96.0		96.2	93.3		97.4	76.5
	<b>利得</b>	<b>28.4</b>		<b>28.2</b>	<b>31.0</b>		<b>26.9</b>	<b>18.4</b>

FIM(機能的自立度評価法)：日常的な基本動作が自分でできているかを評価するもので高いほど自由度が高い 126点満点  
 利得：入院期間内に日常生活活動(FIM)が改善した点数(退院時FIM-入院時FIM)  
 全国平均データは、回復期リハビリテーション病棟協会調査報告書より抜粋

## 回復期リハビリテーション病棟でのリハビリテーション実施時間数

1日平均 リハ時間	2018年度						2019年度						2019年度 全国 1日平均
	回リハ病棟 入院料1			回リハ病棟 入院料3			回リハ病棟 入院料1			回リハ病棟 入院料3			
	平日	休日	平均										
リハ単位数	7.8	7.5	7.7	7.7	7.5	7.7	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	6.4
実施時間(分)	156	150	154	154	150	154	160	158	158	158	158	158	128

リハ単位：1単位は20分  
 全国平均データは、回復期リハビリテーション病棟協会調査報告書より抜粋

## 医療療養病棟でのリハビリテーション実施時間数

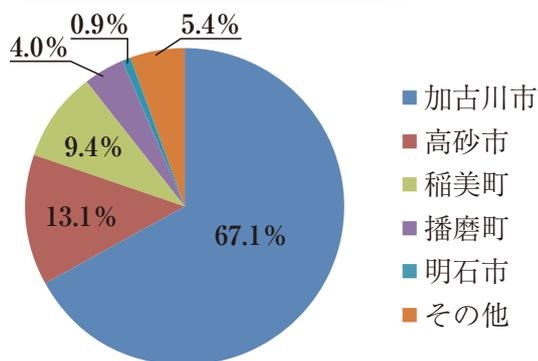
1日平均リハ時間	2018年度	2019年度
	医療療養病棟	
リハ単位数	2.6	2.5
実施時間(分)	51.0	50.0

リハ単位：1単位は20分

## 新規入院患者

総数	745名
回復期リハビリテーション病棟	572名
医療療養病棟	173名

## 居住地別割合



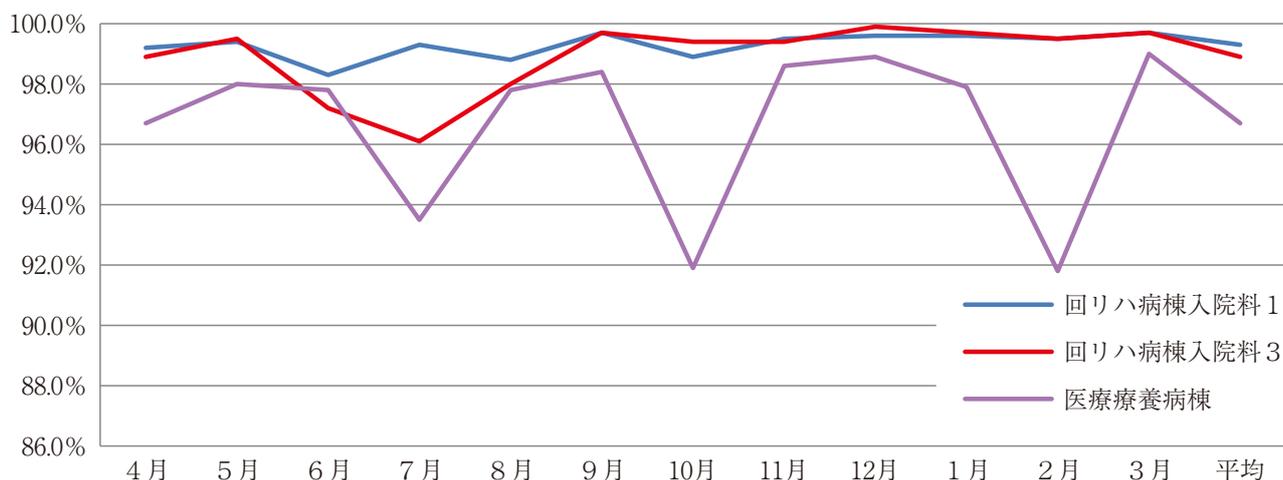
## 平均年齢

回復期リハビリテーション病棟	74.9歳
医療療養病棟	80.3歳

## 平均在院日数

H30年度			R 1 年度		
回りハ病棟入院料1	回りハ病棟入院料3	医療療養病棟	回りハ病棟入院料1	回りハ病棟入院料3	医療療養病棟
67.8	71.0	97.5	67.9	79.4	122.8

## 病床利用率



## 回復期リハビリテーション病棟の新規入院患者の疾患別割合

疾患別区分	当院	全国
脳血管疾患	60.3%	45.0%
運動器疾患	30.6%	40.0%
廃用症候群	5.9%	6.8%
神経・筋・靭帯損傷	0.0%	1.7%
股・膝関節置換術後	3.2%	6.5%

(全国はR 1 年 8 月 9 月 データを使用)

## 回復期リハビリテーション病棟の退院経路

退院経路	当院	全国
自宅	78.2%	66.7%
老健施設・福祉施設	6.6%	6.8%
院内他病棟・転院	4.5%	7.6%
転院・転棟(急変により)	10.5%	6.9%
死亡	0.2%	

(全国はR 1 年 8 月 9 月 データを使用)

## 栄 養 課 コ ー ナ ー

順心リハビリテーション病院では以前から摂食嚥下委員会を行い、摂食嚥下機能の向上に力を入れてきました。今年度からはさらに多職種による効果的な介入を行えるように摂食嚥下支援チームを設立し、週に1回カンファレンスを行うことになりました。構成メンバーは医師、看護師、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士を中心に必要に応じて理学療法士、作業療法士も加わり患者様のリハビリテーションの進め方や食事形態、食事時の姿勢など多岐にわたり介入、見直しを行っています。食事は栄養をとるだけでなく、楽しみや生きがいにもなります。管理栄養士として患者様に誤嚥することなく安全に食事を口から食べていただけるように食事形態や提供量の提案など行っていきたく思います。また、摂食嚥下支援チームを通して姿勢や食べ方など他職種の分野においても学び今後の患者様の支援へ活かしていければと考えています。



### 基本理念

質の高いリハビリテーションを通して地域医療に全力をつくす

### 基本方針

1. 患者さま、ご家族さまの権利と要望を尊重し、安全・納得のいく医療・生活リハビリテーションをめざします。
2. 地域連携を密にし、チーム医療によるサービスの継続・向上をめざします。
3. 人材育成、成長に向けて教育研究の推進を図ります。
4. 経営参画意識をもって業務を遂行します。
5. 在宅系サービスと連携して、地域リハビリテーションを推進します。

### 病院概要

建物構造／鉄筋コンクリート4階

病床数／180床

2階・3階(回復期リハビリテーション病棟)120床  
4階(医療療養病棟)60床

### 地域連携室

TEL : 079-438-3205

FAX : 079-438-3206

平日 9:00~17:00 土曜日 9:00~12:00

広報誌に関する問い合わせその他ご意見等ありましたら  
まずは上記までお電話ください。

社会医療法人社団 順心会 順心リハビリテーション病院

〒675-0005 兵庫県加古川市神野町石守1632

TEL(079)438-2200 FAX(079)438-6085